

新日銀ネット 第一段階開発分の稼働開始

(二〇一四年一月)

▼日本銀行は、二〇一四年一月六日、新日銀ネット第一段階開発分の稼働を開始しました。

【日銀ネットの概要】

▼日銀ネットは、正式名称を「日本銀行金融ネットワークシステム」といい、日本銀行とその取引先金融機関との間の資金や国債の決済をオンライン処理により安全かつ効率的に行うことを目的として構築された、日本銀行が運営しているネットワークのことです。基幹的な決済システムとして、一九八八年に稼働を開始して以来、約二五年にわたり、わが国金融市場において重要な役割を果たしてきています。

【新日銀ネットの構築】

▼この日銀ネットについて、日本銀行では、金融のグローバル化や情報技術革新の進展といった環境変化の下で、わが国決済システムの安全性・効率性を一層向上させる観点から、システム基盤や対象業務・機能を抜

本的に見直し、「新日銀ネット」として新たなシステムを構築することとしました。

新日銀ネットの開発は二段階に分けて行っており、このうち金融市場調節（オペレーション）と国債の入札関連業務および国債系オペレーションなどの受渡関連業務を対象とする第一段階開発分について、予定どおり二〇一四年初に稼働を開始しました。

現在は、二〇一五年秋から二〇一六年初を予定している第二段階開発分の稼働（新日銀ネットの全面稼働）に向けて、準備を進めています。第二段階開発分は、当座預金決済や国債振替決済をはじめとする幅広い業務を対象としています。日本銀行では、取引先金融機関など関係者の方々と協力しながら、今後も着実に開発関連作業を行っていきたくと考えています。

※詳細は、日本銀行HPの「新日銀ネット」のコーナーをご覧ください。

二〇一三年十一月より、新しい「国庫金のOCR事務」をスタート

▼日本銀行は、全国の金融機関（約四四〇先）とともに、国の税金や社会保険料などの「国庫金」の受入事務を取扱っていますが、二〇一三年十一月二十五日より、国庫金の受入事務（OCR事務）の一部を見直しました。

【国庫金のOCR事務とは】

▼国民や企業などから金融機関に持ち込まれる国庫金の受入件数は、年間一億四千万件程度あります。このうち六五〇〇万件弱は、紙の証券を使って店頭窓口で納付されています。

日本銀行では、全国の金融機関から集められた証券と現金を受け取り、証券を電子データ化するOCR（光学式文字読み取り）処理を行い、政府預金に入金しています。

【事務見直しの内容】

▼日本銀行では、こうしたOCR事務に使うシステムの更新の機会を捉えて、事務の一部を見直すこととしました。

具体的には、第一に、近年の物流機能の発展を踏まえ、これまででは、地域金融機関等の一部店舗が同地域にある金融機関の取扱った証券や現金を取りまとめたうえで日本銀行に持ち込むといった流れとしていましたが、これを取り止め、証券や現金を取扱った金融機関が直接日本銀行に持ち込むこととしました。

第二に、従来、日本銀行のすべての本支店で各地域にある金融機関の取扱った証券のOCR事務を行っていましたが、一部の支店（二六店舗）については、これを取り止め、七つの本支店に事務を集約しました。各地域にある金融機関の取扱った証券や現金は、これらの七つの本支店に送られることとなります。

【金融機関との「対話」】

▼新しい事務を始めるに当たっては、全国の金融機関の実務への影響等も考慮し、約三年半をかけて全国の金融機関と意見交換を行いながら、実施に移しました。

今後、こうした実務について金融機関としっかりコミュニケーションしながら、国庫金事務などの効率化を図っていきます。

日本銀行本店本館を舞台に ドラマ撮影

▼二〇一四年一月に、国の重要文化財である日本銀行本店本館で、ドラマ撮影が行われました。

ドラマのストーリーは、日本で国産自動車産業を育てたいとの夢に向けて奔走する企業家の挑戦です。日本銀行は、その夢が潰れそうになったとき、日本経済の発展を支えるため、銀行団による協調融資を取りまとめるなどの役割を果たします。

日本銀行がドラマ撮影に協力することは近年なかったことです。このドラマは、昭和二十年代に在職した^{いまだ}一万田総裁の実話をもとにした話であるうえ、金融政策遂行の難しさなど、現在に通じるところも含まれており、日本銀行に親しんで頂ける一助となったなら幸いです。



ドラマ「リーダーズ」、TBS 系列で 2014 年 3 月に放映済みの撮影の様相（左から、総裁役・中村橋之介さん、名古屋支店長役・香川照之さん、アイチ自動車工業社長役・佐藤浩市さん）

「第九回日銀グランプリ」 「キャンパスからの提言」の 決勝開催

▼日本銀行では、昨年十一月三十日、大学生を主な対象とする金融経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「第九回日銀グランプリ」を本店において開催しました。

▼今回はわが国の金融に関するテーマについて、全国の三九大学から計一二〇編の論文が寄せられ、一次審査（書類審査）の結果、五チームが決勝に進出しました。

▼決勝当日は、各チームがそれぞれ一五分間のプレゼンテーションを行った後、審査員からの質問に答えるかたちで進められました。

審査員には、柏木斉氏（経済同友会副代表幹事・リクルートホールディングス取締役相談役）、石黒不二代氏（ネットイヤーグループ代表取締役社長兼 CEO）をお招きしたほか、日本銀行から岩田規久男副総裁（審査員長）、佐藤健裕、木内登英両審査委員が参加しました。

▼審査の結果、最優秀賞には、武蔵大学チームの「被災企業訪問から考える、被災企業救済の新たなス



趣向をこらした
プレゼンテーションを展開

キームの提案「災害に強い国づくりファンド」が選ばれました。本提言は、東日本震災の経験と糧として、民間資金を主体とする被災企業支援ファンドおよび情報提供等を行う支援機関を創設するというものです。このほか優秀賞（東京理科大学、東京経済大学）、敢闘賞（立教大学、福島大学）を選出しました。

▼審査員から、「わが国の金融に関して健全な問題意識を持ち、現状の問題点や課題を把握した上で、それを補強するためのアンケート調査や実務家への聞き取り調査を行った。こうした地道な取り組みを通じて、独りよがりにならず、地に足の着いた提言に結びつけている点は高く評価できる」との講評がありました。

▼日銀グランプリについては、日本銀行ホームページに専用コーナーを設けて、概要、決勝参加チームの発

表論文全文および審査員講評等を紹介しています。また、同コーナーや YouTube では、今回の決勝大会の様相を収録した動画（三分程度）も配信しています。

▼日本銀行では、二〇一四年度も日銀グランプリを開催する予定です。たくさんのご応募をお待ちしております。



決勝進出チームの皆さん・審査員を囲んで

編集後記

■熊本県の営業部長「くまモン」が1月6日付で「しあわせ部長」を兼務しました。「自分たちが気付かなかった価値を再発見し、それを多くの人に伝えていく。そして自分たちの日常もより豊かにしていく」。小山薫堂氏の思いが、これからどのように地域に根付き、更に新しい魅力を生み出していくのか、今後の展開が楽しみです。

小山氏にはお金を題材にした「勝手にテコ入れ」も行って頂きました。お金に込められた思い、感謝を大切にしていって、まさしく私ども日本銀行情報サービス局が金融広報中央委員会事務局として推進している「金融教育」の大事なポイントです。お金の面から「生きる力」、「自立する力」を育むのが金融教育です。小山氏のお話も参考にし、子供から大人まで共感を得ながら「お金の知恵」を広めていければと思っています。

ちなみに、今回「地域の底力」で訪れた近江八幡市。こちらでは住民が、埋め立てからお堀を守り、水郷を守ったことが、今の観光の街造りの原動力になりました。「いいものを守ればおのずと商いになる」。小山氏のメッセージとも通じる取り組みでした。(丹治)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (http://www.boj.or.jp/) をご覧ください。

にちぎん 2014年春号
編集・発行人 丹治芳樹
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 サンメッセ株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。

「日本銀行見学等」のご案内

▼日本銀行では、重要文化財に指定されている本店本館(旧地下金庫エリア、旧営業場、史料展示室)および新館(一階営業場)などの見学案内を行っています。また、日本銀行の仕事や建物、貨幣の歴史などをテーマにしたレクチャー付見学も定期的に開催しています(無料)。

*詳細は、日本銀行HPの「広報イベント・見学等」のコーナーをご覧ください。

▼ご希望の方は、見学希望日の三カ月前から一週間前までに、電話でこ

予約ください。

【申込先】

情報サービス局(見学受付)



旧地下金庫エリア

〇三―三七七―二八一五

(九時半～十六時半(月～金))

▼本店のほか、全国の支店でも、随時



史料展示室の様様

見学を行っております。支店ごとに

予約方法が異なりますので、お手数

ですが、見学をご希望する支店のHPで、予約方法をご確認ください。

▼また、金融研究所貨幣博物館(①)、旧小樽支店金融資料館(②)は、ご予約なしで見学いただけます(ただし、二〇名以上は要予約)。

*最新の開館情報は、各HPをご覧ください。

① http://www.imes.boj.or.jp/cm/

② http://www3.boj.or.jp/otaru-m/

▼多くの方のお越しを、お待ちしております。

① http://www.imes.boj.or.jp/cm/

② http://www3.boj.or.jp/otaru-m/

▼多くの方のお越しを、お待ちしております。

① http://www.imes.boj.or.jp/cm/

② http://www3.boj.or.jp/otaru-m/

▼多くの方のお越しを、お待ちしております。

① http://www.imes.boj.or.jp/cm/

② http://www3.boj.or.jp/otaru-m/